

目指すは実業教育

4 力条の教育方針

開校式の式辞で、松本源太郎初代校長は山口高商の教育方針を述べている。

- 第一 高等商業学校トシテノ本校ハ徒ラニ深遠ナル空理ニ馳セス実際ニ重キヲ置クヘシコト
- 第二 成ルヘク少年ノ中ニ高等商業ノ教育ヲ了ヘ実業ニ就カシムヘシコト
- 第三 本校ノ卒業生ハ成ルヘク滿韓地方ノ実業ニ従事セシムル目的ヲ以テ教育スルコト
- 第四 徳育ニ重キヲ置クコト

このうち、第1と第3の項目が注目される。日露戦争後に予想された「満韓経営」の重要化と人材養成の必要から、「満韓」に直近の山口に高商を設置し、時代の要請に応えようとした国策が見て取れる。

大学予科から専門学校へと大きく舵を切った山口高商は、ビジネス・リーダー養成に向けて体制を整えることとなった。



松本源太郎校長

特徴的な授業科目

明治38(1905)年2月27日、「山口高等商業学校規程」が定められ、授業科目が決定した。高等学校時代と比較すると、教育方針の変革は一目瞭然である。

旧山高 (明治33年)	各部共通	倫理、国語、英語、ドイツ語、ラテン語、数学、物理、体操
	第1部 法・文	歴史、論理及心理、法学通論、経済通論
	第2部 工・理・農	化学、動物及植物、地質及鉱物、図画、測量
	第3部 医	化学、動物及植物
山口高商(明治38年)		倫理、書法及商業文、応用物理学、英語、商業算術、商業地理、簿記、応用化学及商品学、経済学、民法商法、商業学・商業実習、第二外国語、体操



実践室

山口高商は他の高商に先駆けて
タイプライターを導入した

教員の任免異動

山口高商への転換により、授業科目は大幅に変更されるとともに、生徒定員が500名から300名に減少した結果、教授定員も半数に減り、教員の更迭という事態となった。

松本校長は、防長教育会からの資金援助を願い、明治39(1906)年7月限りをもって退官する大学予科教員には各人の俸給1年分に相当する酬謝金を支払う一方、商業科教員の任命に奔走した。最終的に旧山高からの残留教員は、横地石太郎教授ただ一人だった。



教官室



横地石太郎教授
後に第3代校長となった

年次	学校長	教授	助教授	書記	備考
明35.3.27	1	20	3	6	旧山高時代(大学予科)
39.3.30	1	18	3	6	大学予科3年生+山口高商1年生
39.7.12	1	10	3	6	7月3日、大学予科最終卒業 山口高商1、2年生
42.4.6	1	15	5	6	清国留学生部特設
44.3.31	1	16	7	6	45年1月より生徒定員360人に増加

教職員定員の変遷(年次は文部省直轄諸学校職員定員令改正年による)

高商発進！

明治38年2月、「山口高等商業学校規程」に続いて同規則が制定された。



開校時帽章

- 修業年限 3年
- 生徒定員 300人
- 授業料 年額25円
- 入学資格

品行方正で年齢17歳以上の男子のうち、中学校等卒業生で入学試験及び体格検査合格者

当時の小学校教員初任給
約2ヶ月分に当たるよ



第1回目の入学試験は4月10日～14日に文部省及び山口高商本校を会場として実施された。募集人員100名に対して応募者250名、このうち101名が入学し、明治38年5月8日、入学式が挙行された。



第1回目生徒募集の広告
(「防長新聞」明治38年3月4日)

実業教育のための設備充実

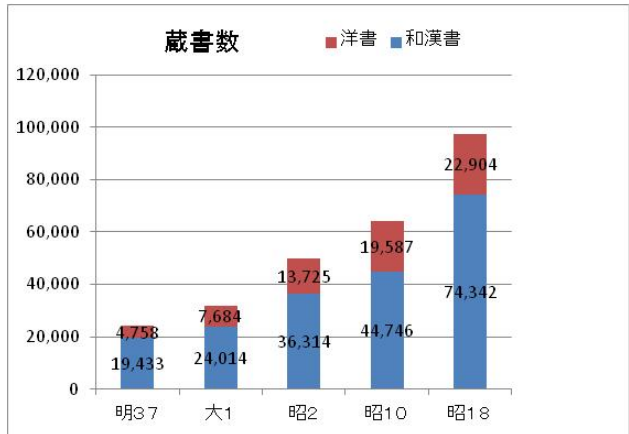
山口高商では、実業教育を実践するにあたり、商業・経済・法律関係の専門書や商品学の標本等を充実する必要が生じた。このための資金は、防長教育会が高商への転換の際の文部大臣との取り決めに基づいて、臨時費2万円を寄附した中から充当された。

さらに、図書増加にともなう書庫の増築、商品陳列所及び商品学講義室の設置など、建物の増改築も必要となり、これもまた防長教育会からの寄附金に負うところが大きかった。

図書館



図書館書庫外観



蔵書数の増加

(『山口高等商業学校沿革史』より数字を基に作成)



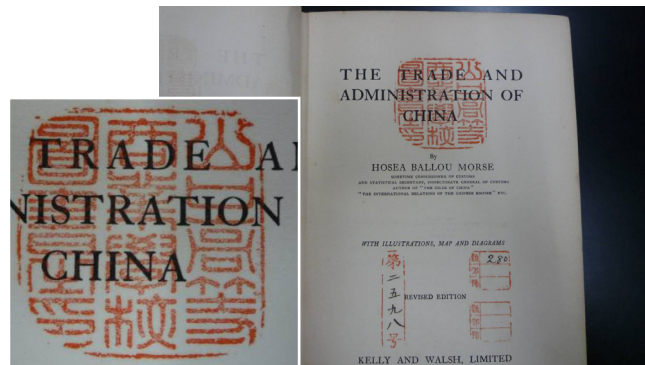
図書館閲覧室



経済学部東亜経済研究所書庫に保存されている当時の図書

当時は海外留学する教官に現金を持たせ、洋書を購入していた。昭和になると卒業生等同窓会関連からの寄贈が急増した。

山口高商の蔵書印



商品陳列室

商品学の関連設備を整えるため、旧山高時代の理化学教室を商品学講義室(121.5坪)と商品陳列室(111.5坪)に改造した。商品学担当の横地教授が中心となって商品の収集が促進され、大正4(1915)年末には寄贈分も含めて6,629点(時価13,244円余)の商品標本を揃えることができた。図書の場合と同様に、教官出張の際に商品を購入したり、生徒に対しても旅行で採集した商品や自家の商工見本を寄贈して欲しいと呼びかけ、収集に尽力した。



当時の商品陳列室



現在の商品資料館

商品標本は現在も商品資料館に継承されている
右の黒い建物は東亜経済研究所

